

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

◆ 国語科の重点 ◆

【1年】・言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深める。

【2年】・表現と理解に役立てるための言語についての知識・理解を深める。

【3年】・書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえる。

言語事項全般につき理解を深め、様々な場面で活用できるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・総合としては目標値を超えているが、国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力については目標値を下回っている。漢字については読む力はあるが、書く力がかなり不足しており、目標値、区平均とも下回っている。	①国語に対する興味・関心を高めるために、意欲的に取り組ませることができそうな工夫が必要。 ②話の内容を正確に聞き取る力を身につけさせる必要がある。 ③漢字の構成を理解し、書く力を身に付けさせる必要がある。	①興味・関心を高める教材を開発していく。ICT機器を積極的に活用していく。 ②班活動・発表の機会を増やし、話す力、聞く力を育てる。適宜聞き取り問題等行い、成果を確認する。 ③漢字の成り立ちを理解させ、問題演習により力をつけていく。
2年	・国語への関心・意欲も高く、総合としては目標値を超えているが、言語事項の「漢字の書き」については都学力調査の結果とともに、目標値に届いていない。「読むこと」の説明文の課題解決力が区の平均を超えていない。	①「漢字を書く」書き取りができていない⇒ワークは全員提出し、良くやるが定着しない ②「読むこと」の中で、説明文の内容を正確に読み取り、読み取った情報を基に、課題を解決する力を定着させる必要がある。	①漢字ワークの提出等継続的に行うだけでなく、漢字の成り立ちを理解させ、問題演習により力をつけていく。生徒相互の作文の推敲を行うなど、常用漢字を文章内で書くことの定着をめざす。 ②班活動・発表の機会を増やし、各自が読み取った情報を解決する問題演習の機会を増やす。
3年	・総合としては目標値も区平均も超えているが、国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力、書く能力については目標値は超えているものの、区平均は若干下回っている。漢字の書きについては昨年度の取り組みの成果を感じることができる。	・情緒的文章に関する関心は高いが、説明的・論理的的文章に対する関心・意欲が低い。書く分野においても、感想文・詩・俳句等の作成については概ね意欲的にとりくめるが、意見文・小論文等の論理的文章の作成については課題が残る生徒も多い。	①新聞・インターネット等の記事を活用し、興味・関心を高めながら、論理的的文章に触れていく。同時に昨年度より課題となっている語彙力についても身に付けさせる。 ②班活動の機会を増やし、考える力、話す力、聞く力、書く力を同時に養う。 ③問題演習の機会を増やす。

(2) 社会科

◆ 社会科の重点 ◆

- ・基礎・基本の定着を重視し、発展的な社会的思考判断の能力の土台を形成する。
- ・レポートや新聞づくり、ICTの活用による、プレゼンテーション能力の向上に努める。
- ・授業において目標を明確にし、単元においては到達目標を観点別に明示することで、生徒の学習意識を高めて、主体的に授業に参加する生徒の育成に努める。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の校内平均正答率は、区および全国平均正答率を上回ることができた。特に、社会的事象についての知識・理解の正答率が高かった。 ・三分野ともに概ね正答率を上回っており、特に我が国の政治の正答率は大きく平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対してまじめに取り組む生徒が多く、発言も積極的に行うなど、意欲的に学習に臨んでいる。 ・学力が高い生徒も非常に多いが、小学校で身につけておくべき基礎的な学力が身につけていない生徒も一定数いることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントや問題集による反復学習を行うことにより、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・今後とも生徒の関心・意欲を高めていけるよう、ICTの活用を始めとする教材の開発を行う。また、課題解決型の学習を通して、全ての生徒が主体的に学ぶことができるように工夫を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の校内平均正答率は、区および全国平均正答率を下回る結果となった。「活用」は正答率が高かったものの、「基礎」が低かったことが課題である。 ・地理的分野の正答率は高かったが、歴史的分野の正答率は低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に臨む生徒と、受け身で臨む生徒の差が大きい。主体的に学習に取り組んでいる生徒が固定化されている状況である。 ・家庭学習も、テスト前は時間をかけて学習する生徒が多いが、日常の学習は足りていない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒が主体的に学ぶことができるよう、生徒が考える場面や活動する場面を多く設定し、課題解決型の学習を行っていくこととする。 ・基礎的な知識を定着させるべく、授業内容を復習する場面を授業内や家庭で設定するようしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の校内平均正答率は、区および全国平均正答率を大きく上回ることができた。また、内容別正答率もすべての項目で区・全国の平均を上回ることができた。 ・教科の正答率の内訳では、基礎は良いが、活用が区・全国に届かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1，2年生の基礎的な内容については、地理・歴史ともに、学力がついてきている。 ・基礎的な内容を踏まえての活用する力が不十分なので、今後は、資料の読み取り、考察力を養う必要がある。また、公民的分野の基礎学力も定着させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、生徒の関心・意欲を高めていけるよう、ICTの活用を始めとする教材の開発、授業内容の工夫・改善を積み重ねていく。 ・資グラフや表などの読み取り、また複雑な応用問題に数多く取り組み、考察力・応用力を養う。 ・公民的分野の授業の充実につとめ、基礎・応用力を養う。

(3) 数学科

◆数学科の重点◆

- ・個に応じた基礎・基本の確かな習得と、応用・活用・発展的な力を伸ばす主体的な学習活動を実現する指導の工夫・充実。
- ・数学の有用性を実感し、対話的な言語活動を活用した「数学的に考える力」の育成を目指した指導の工夫。
- ・評価を効果的に活用した、1単位時間の学習密度の向上・工夫。
- ・習熟度別少人数をより効果的に実施するための指導の工夫と、教材の開発の充実。
- ・継続的な学習活動の指導。特に家庭学習の意義の理解を深め、習慣を付ける指導の充実。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・区平均と比べると、関心・意欲・態度、見方・考え方、技能の3つの観点で1ポイント程度下回っている。 ・家庭学習の習慣が無い生徒が各クラス数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習を中心とした基礎・基本の定着。 ・家庭学習の習慣の定着。 ・理由や筋道を考える数学的な考え方を育てる指導の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の習得と毎日の家庭での学習のために、復習に重点を置く課題を毎回出題する。課題は反復練習を多くし、計算分野の学力向上を目指す。 ・筋道を立て、考える学習活動の機会の工夫に重点を置く。数学的言語活動の充実も図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・数学への関心・意欲・態度に加え、昨年度課題とした数学的な見方・考え方の観点において、区や全国よりも上回る値が大きく、指導の成果が見られた。 ・数学的な技能の観点で、区平均を下回った。1次式の減法や分配法則といった基礎・基本の定着不足が見られる。 ・特に関数の領域において、正答率が低い。グラフの理解に課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着の不足 ・小学校の学習内容の定着 ・基礎・基本の定着をねらった反復的な学習 ・理由や筋道を考える数学的な考え方の学習と、その利点をより考えさせる学習 ・特に方程式及び関数の領域の理解と技能の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、達成を確認しながら進める授業の展開の工夫。 ・学びの連続性を取り入れ、日頃の授業において小学校の学習内容や、前時の学習内容を復習する時間を持ち、反復的な学習による定着を図る。 ・筋道をたてて考える学習活動の機会の工夫を重点的に図る。特に言語活動の充実を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度課題とした1次方程式、関数分野の校内平均正答率は、全国平均正答率を大きく上回ることができた。 ・図形分野の図形の性質において、正答率の伸びが低い。一つ一つの性質を丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着の徹底 ・小学校の学習内容の復習 ・家庭学習の習慣の定着 ・数学的な見方や考え方を伸ばすための指導の工夫 ・図形分野の理解と技能の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を大切にして、毎日「こつこつ」と学習する習慣を身に付け、学力の向上を図る。 ・「考える場面」や「活動する場面」を多く取り入れ、言語活動を充実させ、思考力の育成を図る。

(4) 理科

◆理科の重点◆

- ・実験・観察に重点を置き、実験や観察の目標を明確にし、科学的に探求する力の基礎と態度を育てる。
- ・事象や結果から考察しレポートや言葉で表現する力をつける。
- ・読み取る力と多面的にとらえる力を育てる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な正答率は区、全国平均を1～2ポイントほど下回っている。 ・生物、地学分野では区平均とほぼ同じだが、物理、化学分野では区平均を下回っている。 ・観点別では思考と技能が区平均を下回っている 	思考・表現と技能の部分が低く、実験や観察を行う上での技能や知識、その結果をレポート等としてまとめる力が低いと思われる。関心や知識の部分は区平均とほぼ同じだが全国平均と比べると低く、更なる定着が必要と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、観察を行う上で目的、手順や操作をよく確認し、より理解を深める工夫をし、その結果をレポート等にまとめる際にもまとめ方や結果から導き出される考察を強く意識させる教材を工夫する。 ・器具の操作に習熟する動機付けとして実技テストを行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は基礎・活用とも区平均よりやや高いが、活用力に課題がある。観点別評価では、どの観点もやや高いが、とくに知識・理解が高い。科学的思考力を高める必要がある。特に問題文の読み取り力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の内容別正答率では、11問中8問が区平均より1.8～18.0ポイント高い。特に、水溶液の問題が6.1ポイントも低い。 ・学習内容の定着にアンバランスがある。また、どの分野も時間がたつと忘れてしまう率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を多く取り入れ、興味・関心を高めつつ、実験結果からの考察に重点を置き、考える力やまとめる力、自分の言葉で表現する力などを適宜取り入れ、丁寧にまとめていく。生徒一人一人に実験のレポートをしっかりと書かせるように工夫していきたい。
	正答率は区平均。 しかし、2年次と大きく違ったのは、関心意欲の到達率が下がったことである。 全体の関心意欲が下がったのではなく、両極に別れたのが原因と考える。	2年次に力を入れた実験・観察し、その結果を考察するという力は着実についている。 問題演習や小テストなどで、確認テストをやっていない項目ができていなかった。	実験・観察・考察するというスタンスは引き続きやっていくが、それと並行して、さらに問題演習や小テスト小を項目ごとにおこない、生徒自身で評価をし、理解度を確認できるようにしていき、基礎力、応用力の定着をはかっていく。

(5) 音楽科

◆音楽科の重点◆

- ・「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の各分野で基礎・基本を身につけさせる。
- ・音楽による自己表現に関心を持ち、表現の工夫をしたり、またその表現をしたりするための技能を自ら身につけようとする生徒を育てる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の受け方の基本を徹底させることを最優先に授業を行っており、おおむねの生徒がそれを身につけつつある。 ・歌唱に関して、基本的な発声の仕方を身につけていない生徒が多く、今までの歌い方から抜け出せない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言のルールや合唱練習中の私語など、規律の守れない生徒もいる。 ・正しい姿勢、美しい声の出し方を定着させる。 ・「器楽」「鑑賞」「創作」の授業の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの根気強い指導を行う。 ・発声方法指導。 ・自己評価、相互評価を取り入れ、苦手意識を減らし、意欲を持って授業に取り組めるよう指導する。 ・題材を厳選し「器楽」「鑑賞」など複数分野を短時間で指導できるよう工夫する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にまじめな態度で授業をうけるが、中には不得意感を持っている生徒もいる。 ・合唱練習と並行してワークシート、感想文の記入をさせるが、言葉や文章表現が不足している生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部集中できない生徒がいる。授業規律の徹底も必要。 ・音楽的表現の工夫をする時に言葉で他人に伝えられるようにする。 ・「器楽」「鑑賞」「創作」の授業の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの根気強い指導を行う。 ・発声方法の指導。 ・自己評価、相互評価を取り入れ、苦手意識を減らし、意欲を持って授業に取り組めるよう指導する。 ・題材を厳選し「器楽」「鑑賞」など複数分野を短時間で指導できるよう工夫する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に真面目で指導に対して素直に努力する生徒が多い。 ・合唱練習を自発的に行い、向上心もあるが、自己批判能力が弱いので課題を見つけられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より自主的に学習をすすめることができるようにする。 ・音楽的表現の工夫をする時に的確な言葉で他人に伝えられるようにする。 ・「器楽」「鑑賞」「創作」の授業の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの根気強い指導を行う。 ・発声方法の指導。 ・自己評価、相互評価を取り入れ、苦手意識を減らし、意欲を持って授業に取り組めるよう指導する。 ・題材を厳選し「器楽」「鑑賞」など複数分野を短時間で指導できるよう工夫する。

(6) 美術科

◆ 美術科の重点 ◆

- ・ 楽しく美術の活動に取り組む中で、色や形、光と影などの視覚的な効果やイメージ、知覚の性質を知り、感性や情操、想像力、美意識などを大切にし、目標と喜びをもって自己実現を果たしていく意欲と態度を育てる。
- ・ 基礎的な知識と豊かに発想し構想する能力や形や色彩による表現の技能を活用して、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- ・ 造形活動を通じて様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値感をもち、生涯にわたって主体的に美術と関わり、愛好していく態度と社会とつながるコミュニケーション能力を育てる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	① 美術館を活用し、鑑賞した経験のない生徒が多い。作品鑑賞では、言葉で語ったり記述することが苦手な生徒もいる。大きな図版や映像を使った鑑賞は関心が高い。	① 見方や感じ方を広げるための題材を十分検討し、吟味する。	① ICT 機器を用いた鑑賞や作品の校内展示、掲示物や映像資料の活用により、対象の良さや美しさ、作者の表現意図を感じ取らせ、説明しあう機会を作る。鑑賞と表現を弾力的に行き来するような授業を組み立てる。
	② 材料・用具の経験の有無や苦手意識などにばらつきがある。	② 安全かつ創造的に工具・道具・刃物類が扱えるようにする。単に「上手いか下手か」といったことから、不得手意識を持たないように注意する。表現しやすい雰囲気づくりを大切にする。	
2年	① 鑑賞活動そのものの関心が高い。記述は苦手な生徒が多いが、活発な意見交換ができる。	① 言語活動を充実させ、対象の良さや作者の表現意図や工夫を感じ取らせる。	① 掲示物や映像資料の活用により、説明しあう機会を作る。共同制作の教材の研究、工夫をする。
	② 材料・用具の経験の有無や取り扱いにばらつきがある。制作時間が足らず補習、持ち帰りになってしまう。	② 安全かつ創造的に工具類が扱えるようにする。表現の意図や内容を明確化させ、制作意欲を高めて、毎時ごとの自己の目標を作らせる。	
3年	① 鑑賞で活発な意見交換ができる。	① 対象の良さや作者の表現意図や工夫を説明や記述することで言語活動を充実させる。	① 説明したいことを記述する機会を増やす。
	② 自分に合った表現方法を選び、目標を持って、自己実現を果たすことができる。	② 安全な使用方法を繰り返し指導し、安全で創造的な工具類の取り扱いができるようにする。	
	③ 修学旅行との関連を図った美術文化の鑑賞や体験した伝統工芸について、思いを深められることは、本校生徒の大きな特徴である。	③ 日本および、諸外国の美術文化、伝統工芸の理解に重点を置いた教材の研究・工夫をする。	③ 身の回りの事物などが生まれてきた背景や、生活におけるデザインの必要性を考え、鑑賞とも関連させる。

(7) 保健体育科

◆保健体育科の重点◆

- ・ 体育委員の生徒を中心に授業前の集合・体操等の授業規律の遵守の徹底をさせる。
- ・ 得意不得意に関係なく、自己の課題解決を目指し熱心に取り組む生徒の育成。
- ・ 学びあい学習を通じて、仲間と協力したりお互いに高めあおうとしたりする力の育成。
- ・ 生涯にわたり運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度の育成。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何事にも一生懸命取り組み、とても意欲的である。 ・ 指示が通りにくい生徒が多くいる。 ・ 運動ができる生徒と苦手な生徒との差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動が苦手な生徒と得意な生徒の能力の差が大きい。 ・ 基礎体力の低い生徒が多い。特に投力が低い生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動が苦手な生徒に対しての個別指導の充実と、グループ学習で学び合い学習を行う。 ・ 毎時間の補強運動を充実させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に素直であり、とても意欲的である。 ・ 指示が通りにくい生徒が何人かいる。 ・ 運動や動きのコツなど、主体的に考え練習する力が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動が苦手な生徒と得意な生徒の能力の差が大きい。 ・ 主体的に考え練習する力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動が苦手な生徒に対しての個別指導の充実と、グループ学習で学び合い学習を行う。 ・ 毎時間の補強運動を充実させる。 ・ 学習カードを活用し、振り返りの時間を取るなどして主体的に考えさせる場面を作る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に真面目で素直であり、とても意欲的である。 ・ 運動の細かい動き（巧緻性）に対して課題のある生徒が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話を集中して最後まで聞くことができるようにする。 ・ 動きのイメージをつかむことが難しく、動きとイメージが合わず連動しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示を具体的かつ、必要最低限にし全員に指示が伝わるようにする。 ・ 技能のポイントなどを言葉だけではなく、見本をみせるなどしてイメージを作らせる指導を行う。種目に適した動きのトレーニングを毎時間行っていく。 ・ 自己の課題に応じた練習方法を考えさせる。

(8) 技術・家庭科

◆技術・家庭科の重点◆

〈技術分野〉

- ・ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得できるようにする。
- ・生活と技術の関わりについて理解を深め、生活を工夫・創造して実践的に取り組めるようにする。

〈家庭分野〉

- ・生活に必要な技能を定着させ、自らの生活に活用できるようにする。
- ・自分の家庭生活に興味を持ち、課題を持ってよりよい暮らしを工夫できるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1 年	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく積極的に取り組む生徒が多いが、作図に関して苦手な生徒が多い。また、忘れ物が多いクラスがあり、授業規律を徹底する必要がある。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での発問に対する発言も多く、意欲的に取り組む生徒が多いが、知識、技能は個人差が大きい。 	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲の高い生徒も多いが中には集中力の欠ける。 ・製図に関して、立体を想像する力が弱い。 ・何度も忘れ物をする生徒がいる。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理や被服実習を通し、手先を使う経験を多く設け、生活に必要な技能を確実に身に着けさせる必要がある。 ・理解力・技術力に差が大きいいため個に応じた対応をする。 	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作図する立体に近い実物を用意する。また、プリントなどを活用し、わかりやすい指導をする。 ・夏休みの学習教室などを実施し、理解不十分なところを補うように指導する。 ・忘れ物に関してはその都度注意する。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活を振り返り、問題点について主体的に考えさせる工夫をする。 ・実習では用具・器具を正しく安全に使えるよう指導し、定着させる。 ・個人の技能に応じた課題を設定し、意欲的に取り組めるよう指導する。

2年	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真面目に授業に取り組む生徒が多い。一部ではあるが集中力が持続せず私語をして落ち着かない生徒もいる。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、被服実習を計画的に行おうと努力する生徒が多い。 ・実習では協力し合いながら作業ができるが、技能の個人差が大きい。 	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中力が持続できない生徒が一部にいる。 ・植物を育てた経験が少なく、土をさわったり定期的に世話をしたりするなど不慣れな生徒が多い。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な縫製技術の差が大きい。 ・被服実習を通し、手先を使う経験を多く設け、生活に必要な技能を確実に身に付けさせる必要がある。 ・理解力に差が大きいため個に応じた対応をする。 	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でスモールステップを設定して達成感を感じさせて、集中力が持続できるようにする。 ・「生物育成」領域の指導で、身近な野菜作りを通して、生徒の意欲を高め、自然の大切さなども指導する。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して、ミシンの正しい操作方法を身につけ、製作を行い、ものをつくる達成感を感じさせる。 ・生活に役立つものの製作を通して、被服製作への関心を引き出し、協力しながら実習を行えるよう工夫する。 ・製作の工程を分かりやすく示し、指導する必要がある。 ・実習では道具を正しく安全に使えるよう指導し、定着させる。
3年	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真面目で意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多い。その反面、理論的な作業が苦手な生徒もいる。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業にも実習にも取り組む生徒が殆どであるが、わずかながら関心の低い生徒がいる。 	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気の基礎的な知識が十分身につけていない。 ・電気に関する実習の経験が少ないため道具の扱いが苦手な生徒が多い <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の幼い頃をイメージしづらい生徒が複数いる。 ・幼児との関わりがない生徒もいる。 	<p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習時間をできるだけ多く取り解りやすい工夫をする。 ・集中力を切らさないように興味を持てる教材を選定する。 ・実習の中に電気の基礎学習の検証実験を取り入れる。 <p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児のおもちゃ作成に自分の独創性を加味することで、興味を引き出していく。 ・保育実習の事前学習を通し、幼児への関心を持たせ、課題を持って実習に取り組ませる。 ・家族や家庭、幼児についての学習を通し、地域社会へ視野を広げ、社会の一員であることを理解させ、関わり支え合うことが大切であることを気付かせる。

(9) 英語科

◆英語科の重点◆

- ・基礎・基本の定着を図る。
- ・関心・意欲を高め、一単位時間の密度を高められるような教材の工夫をし、一人一人の生徒が自主的に参加できる授業作りを行う。
- ・音読指導の充実を図る。
- ・自己評価カード等を用いて個人の課題を明確にするなどし、教えてもらう態度を、自ら学ぶ姿勢に変えていく指導を行う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・小学校での取り組みから自然な形で中学英語に入れており、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識の定着に時間がかかる生徒も一部みられる。	・小学校の英語と比べると書くことが多くなり、面倒がる生徒もいる。文字から入る英語に拒否感を持たせないようにする必要がある。	・小学校で声に出して多くの英語に触れてきたメリットを活かしながら、自己表現の場面を取り入れ、読む、書くなどの活動を継続的に行わせる。单元ごとに単語、文法などの確認小テストを入れ、到達度を見れるようにする。
	・表現の能力においては、ドリルとともにスピーチや作文など、表現活動を多々行う必要がある。	・授業に関しては、多くの生徒が積極的に取り組み、前向きである。ALTの授業にも積極的である。 しかし、ドリルや繰り返し書いて定着するような活動には積極的になれない傾向がある。	・音読練習に関しては、教科書を暗記するくらいまで行う。 ・ワークブック、ノートなどの点検を増やし、家庭学習の定着化を図る。 ・文法(特に語順)、単語などの定着を図るための小テストなどの回数を増やす。
	・概ね良好な成績ではあるが、単語のつづりを正確に書いたり、また書く力に弱点が見受けられる。	・発音練習など、声も大きく、正確に練習しようという態度が見受けられる。しかし、単語を正確に書いたり、基本的な文法構造について理解を深めさせ、自己表現する力を身に付けさせたい。	・長い文を自分の力で読みすすめ、間違いを恐れずに応答したり、表現できるよう訓練したりする必要がある。 じっくり課題に向かい、自力で読み解き、導き出した解答を丁寧にチェックしてミスなくすような学習活動を繰り返し広げるようにする。 課題を与えての作文指導、スピーチ指導などに時間を割きたい。
2年			
3年			